



代表理事組合長

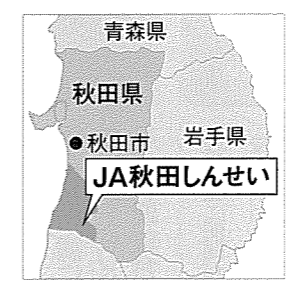
【第3回ゲスト】 島山勝一氏 上

秋田県 JA秋田しんせい代表理事組合長

「インタビューとまとめ」

石田正昭 龍谷大学農学部教授

JA秋田しんせいは雪国・秋田で最も温暖なところ。土づくりを基本に、米、畜産(和牛・豚)、野菜(アスパラガス・ミニトマト)、菌床シイタケ、花卉(りんどう・菊)のブランド化を進めている。「農魂躍動」をキーワードに、先進的な農協運動を展開している。



農魂躍動 土づくりから始めよ

基本は土づくり

石田 「秋田由利牛」や「秋田鳥海りんどう」などブランド化を進めています。土づくり実証米が特に印象的です。

島山 稲作の基本は土づくりにあって、ミネラルをたっぷり含んだ雪解け水を使うことで、鳥海山の恵みを受けています。

おいしい米の決め手はタンパク質の含有率なので、「土づくり肥料」を使ったお米はすべて含有率を測定し、六・五以下の米を実証

米として販売しています。

石田 土づくり肥料とは、ペレット工場で作られているペレット堆肥のことですか？

島山 ペレット堆肥と土壤改良剤の混合散布を土づくり肥料としています。平成八、九年のことですが、由利地域の肥料散布率が県内

でも低いほうにあることがわかりました。それを契機に先進地で勉強を重ね、土づくりの決め手が腐植酸にあることを突き止めました。それから本格的な土づくり運動に乗り出しました。

既存商品の「秋田の大地」、JA独自の「大地の息吹」などを使つた後に、平成二十二年にペレット工場と水稲種子温湯消毒施設をつくり、地域の畜産と組み合わせた資源循環型農業を完成させました。

石田 理想的な姿ですね。

島山 ペレット堆肥の散布料金は、JAの持ち出しです。八千ヘクタールで六千万円くらいかけています。肥料自体は、一緒に撒く土壤改良剤を含めて農家持ちです。一〇アールあたり四千円弱かかっています。そのためか一〇〇%の散布率にはなっていない。秋田県立大学の先生のご協力を得て土壌マップをつくり、集落座談会も開いて推進していますが、八〇%から九〇%の間で動いてい

ます。毎年散布が鉄則ですが……。

石田 散布率の低いところは、どんなところですか？

島山 山間部のほうです。和牛を飼っている農家がけっこう多いので、ペレットは使わないという話になります。散布するにも労力がかかるので、コスト的にみてどちらが得かは微妙なところ。す。

石田 食味値は上がりましたか？

島山 確実に上がっています。一等米比率も県平均よりも二%ぐらい高く、県内で上位に位置しています。ただご承知のように、現在の米余り現象のもとで、なかなか価格に反映させることができない

のが悩みの種です。

精米のみならず、無菌のレトルトパックもつくって、付加価値を高める努力をしています。今これがけっこう伸びています。

石田 精米の「土づくり実証米」を扱う業者もいますか？

島山 全農経由ですが、JA横浜には五〇〇トン以上扱ってもらっています。また、名古屋や先生がお住まいの三重県でも扱ってもらっています。昨年、わが母校の西目高校が「お米甲子園」食味部門で金賞を受賞したので、高校生と連携して、実習田でつくったお米を真空パックで売っています。

三〇〇グラムパックを八つ、袋詰めにして実証米として売っています。

「農魂躍動」を原点に

石田 合併して一八年、「農魂躍動」が本JAのキーワードになっていますね。

島山 「農魂」というのは全共連会長、全中副会長にもなった佐藤秀一初代組合長の座右の銘です。農業への熱い思いを語っています。彼がソビエトに四年間抑留されていたとき、食の大切さや、食の基

本が「農」にあることを身にしみて感じたことから、その思いを「農魂」という言葉で表現したよ

うです。

石田 顕彰碑もありますね。

島山 佐藤組合長の「農協運動」を引き継ぎたいの思いから、合併十五周年を機に本店前に立てました。建立に当たっては、家の光協会の木村一男会長にお口添えをいただいで、全共連から寄付を頂戴しました。息子さんもJA理事の役にあることから、ご遺族にもご負担をいただいています。

マイナス三〇度にもなる所で四年間も苦勞してきたことが、この言葉を生んだのだと思います。引退に当たっては「瑞穂の国に生まれて農と共に生きる」という自叙伝を秋田県中央会・全共連から出版されています。

それを読むと、抑留時代のこと



JA秋田しんせい
(秋田しんせい農業協同組合)

組織の概況(平成26年2月末日)

組合員数	21,390人
.....(正組合員12,585人、准組合員8,805人)	
役員数	35人(うち常勤5人)
職員数	589人(うち正職員439人)

地域と農業の概況

秋田県の南西部に位置し、県内一温暖な気候と鳥海山の冷涼な気候を併せ持つ地域。農業の中心は稲作で、土づくりにこだわった米の生産に力を入れており、また、ミニトマト、アスパラガスなどの青果物や黒毛和牛牛牛の生産が盛ん。「秋田由利牛」「秋田鳥海りんどう」「鳥海ポーク」などのブランドが目ざされている。

JAのデータ(平成26年2月末日)

設立	平成9年4月1日
本所所在地	〒015-8538 秋田県由利本荘市荒町字崎台1-1
出資金	60.3億円
販売品販売額	106億円
購買品供給額	56億円
貯金残高	1,263億円
貸出残高	373億円
長期共済保有高	4,983億円

もわかるし、帰ってきてから地元の水に慣れることに苦勞したこと

もわかります。旧家ではあるが、それだけではなく、人格もたいへんすぐれた方でした。

食糧難の時代にわれわれ農業者は開田をして食糧増産に励み、また米が余り出せば不満を持ちながらも、生産調整に協力してきました。それが突然、農協は農業者のためになつていないとか、農業所得の向上に努力していないとか、わけのわからないことを言い出されています。

わたしに言わせれば、農政の失敗を、われわれ農協人に押し付けているようにしか思えません。農協ほど地域活性化に努力しているところはないと思います。

石田 的外れの農協批判ですよ。農山 われわれは赤字覚悟で人口減少の著しい奥地まで、地域インフラとしてSSやAコープを維持しています。地域の方々にとってなくては困るインフラですから、「しんせいサービス」という子会社をつくって、黒字店の利益で赤

字店の損失を埋め合わせるようなかたちで運営しています。

今回の農協改革でいちばん疑問に思うことは、公認会計士を入れるとか言っていますが、国が設立した長銀とかが、会計士監査を受けながらも潰れてしまったという事実です。今までに農協が潰れたという事実はありません。合併や相互援助基金をつくって対処してきました。そういう努力をまったく評価していないことが残念です。公認会計士を入れれば農協は絶対に潰れないと言えるのでしょうか。さらに言えば、公認会計士を入れれば農業所得が減るような事態は絶対にないのでしょうか。

石田 関係ない話ですよ。むしろ、農山の関係ないですよ。むしろ、リーマンショックのときに農林中金に対して二兆円をつぎ込んだ事実を忘れてもらっては困ります。農業の成長産業化に農協が足かせになっているという主張も理屈が通りません。安倍首相は名門の

出かもしれませんが、名門が名門のままではかぎりません。

石田 地方創生も、わたしに言わせれば、統一地方選対策に過ぎません。

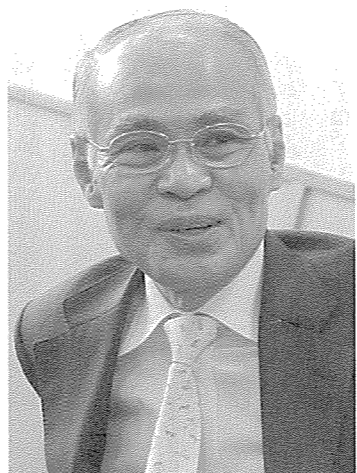
農山 政権側の基本戦略はTPP反対運動を潰すことにあります。TPPもこのままいっただら、たいへんなことになります。安い米が入ってきて、日本の米がダメになつたら、いちばん困るのは消費者ではないでしょうか。空気と水と食べ物、これなしに人間は生きていけません。水と空気は自然界にあるからいいですが、食べ物を確保できないと日本はバンザイになる。アメリカの言うことだけを

聞いてはいけません。孫子の代までこの国に生まれてよかつたという国にしないといけません。

石田 今回の農協改革では准組合員の事業利用規制、これをテコに専門農協化を強制する恐れがあります。

農山 たぶんそうなると思いますよ。小泉郵政改革、次いで安倍農協改革という構図が描けます。保険も金融も、アメリカから言われるままにこの国を変えていこうとしています。

都府県の農協で、営農経済だけで農協経営をやれるところは一つ




いしだ・まさあき 昭和23年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。農学博士。専門は地域農業論、農業政策学、協同組合論。三重大学農学部教授を経て、本年4月より龍谷大学農学部教授。京都大学農学研究所(農林水産統計デジタルアーカイブ講座)研究員を併任。近著に『農協は地域に何ができるか』(農文協)、『JAの歴史と私たちの役割』(家の光協会)など。

JAに人材あり

JA秋田しんせいのロゴマークはスマートだ。全体を「鳥海山」をイメージさせる三角形で構成し、青の「日本海」、緑の「農地」の間をS字の「子吉川」が流れている。

平成22年制定だが、入組2年目の職員作が公募で選ばれたのだという。この職員は全中マスターコースに手挙げ方式で派遣され、監査士の資格も取った。帰ってきてからは監査部に配置され、今は支店LAとして活躍中。「できる奴は何をやってもできる」というのが同僚の評価だ。

マスターコースへはこれまで10人程度送り込んでいるが、派遣生たちは帰ってきてからの伸び代が大きいとのこと。「同じ釜の飯を食った」仲間が全国にいてアンテナが高いことも強みだという。(石田正昭)



めざせ！
総合力で豊かな未来

めざせ！
総合力で豊かな未来

もありません。金融や共済、さらには准組合員というJAファンがいて、バランスが取れています。これしか方法はありません。

昭和三十九年、時の自民党政権が林業活性化のために、二五・五%の木材関税をゼロにして、世界に打って出るといふ戦略を打ち出しました。日本の杉・ヒノキ、これらは世界にない高品質の木材だから、十分勝負できる。関税ゼロがこれからの日本林業の生き残る道だと言われました。

しかし、現実はどうだったでしょうか。自由化から五〇年、先のない林業になってしまいました。林業経営はみんなおかしくなり、限界集落の始まりになって

います。だから、わたしは国会議員の先生方に「歴史を振り返らない政治家は、未来も見えないのだ」と言っています。

石田 厳しいお言葉ですが、的確ですね。ところで今回の農協改革では、理事の過半数を認定農業者

や農産物販売のプロにせよと言っています。このあたりは、どう理解されていますか？

農山 わたしはね、それはやりた人は立候補して組合員から選任されればいい話であって、最初からそういう枠をつくるのはいかなものかと思っています。認定農業者であろうがなろうが、地域の組合員からすれば、自分たちの意見を反映してくれることが大切であって、やりたい人は手を挙げて、地域からの推薦を受ければすむ話ではないでしょうか。認定農

業者ばかりではなく、女性だって同じです。選任されることの意味がそこにあるのだと思います。ただ、女性の場合は、男性中心の農村社会で選任されることは簡単ではないので、女性枠をつくるのは正しい選択だと思います。

石田 女性理事は二人いますか？
農山 当然そうしています。しかし、認定農業者や販売プロに対して枠を設けるといふのは間違いです。やりたい人が手を挙げればよいのであって、誰もそこまでは反対しません。枠を設けるといふのは、民主主義の根本問題に関わっています。

石田 マスコミもきちんとした批判力を持たないといけませんよね。
農山 この間、全国紙の記者から地域の実情を描いた原稿を渡すけれども、それらはみんな編集部でボツにされちゃうという話を聞きました。農業記者には先の階段がないのだとも聞かされました。

(以下、次号につづく)



はたけやま・しげういち 昭和16年、秋田県大内町(現・由利本荘市)生まれ。35年県立西目農業高校(現・西目高校)卒業後、就農。平成3年大内町農協理事、9年秋田しんせい農協理事、13年同代表理事専務、23年同代表理事組合長に就任。家族とともに米、和牛(繁殖牛)を営む。



【第3回ゲスト】

畠山勝一氏 下

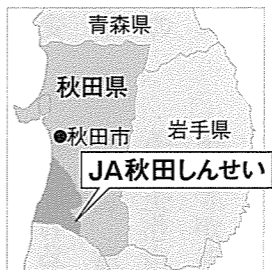
秋田県 JA秋田しんせい代表理事組合長

【インタビューとまとめ】

石田正昭

龍谷大学農学部教授

JA秋田しんせいには、合併前に家の光文化賞を受賞した農協が五つある。西目村、小出、金浦町、上郷、仁賀保町で、全国的にもこれだけの受賞歴を持つJAは珍しい。教育文化活動を中心に据え、組合員参加型のJA運動を展開するという歴史と伝統は今も息づいている。



農魂躍動 土づくりから始めよ

家の光大会を活用して……

石田 キクの種苗センターをつくるなど、園芸振興に力を入れていきますね。

畠山 県の園芸メガ団地事業を導入して、仁賀保地区と鳥海地区に園芸団地をつくりまします。仁賀保地

区はキク、鳥海地区はリンドウ、

キク、アスパラで、一団地一億円以上の販売を計画しています。県の半額助成で、メンバーもほぼ決まりました。鳥海地区では集落営

農組合が法人を立ち上げまします。

石田 その組合はリーダーがしっかりしているのでしょうかね。

畠山 そのとおりです。コメと由利牛はすでにあるので、野菜・花卉のブランド化を図ります。アスパラは鳥海山麓、資源循環型というよいイメージがあるので、市

場・取引先からもいい返事をもたらっています。アスパラも、キク・リンドウも、高齢者には軽いというのがなによりです。

石田 職員も再雇用を望むよりも農業に就くほうがよいのでは。

畠山 職員の家にも農地があるので、現職の時代から農業をしています。組合員さんと共通の話ができるのもメリットです。農協職員と農業というのは、もともと相性が悪くありません。

石田 だとすれば、職員も若いうちから青年部に入ったほうがよいのでは。

畠山 もちろん入ってもらっています。女性部にも女性職員が入っており、一三〇〇人からの女性部になっていきます。昨年度の全国家の光大会記事活用体験発表の県代表も、わがJAから出場しています。

昨年度、わたしは残念ながら行けませんでしたが、その代わり信用共済担当常務に「おまえ行け」と言ったんです。「はあ」と言う

から、「一度は見えておくといい」と言いました。「じゃ、行ってきます」という話になって……。帰ってきたら「組合長、いい体験させてもらいました」というわけです。大会の雰囲気を知るだけでも大いに勉強になる。

光大会に金融担当常務を行かせて感激させる。いいアイデアだ。

石田 感謝したわけですね。

畠山 もう一つ。今年からJA家の光大会を「女性部祭」と名づけて開いています。これまでは「女性部大会」でしたから、男性は入っていないかった。今回からは理事全員に案内を送り、出席を要請しました。これは出席した男性にも、また出席してもらった女性にもよかったです。男性がいるというところで女性たちに張り合いが生まれましたからね。

石田 これは盲点でしたね。家の光大会に金銭負担を減らして、男性も盛りが上がったんだ。

畠山 家の光協会の普及担当者なんか二回もステージで踊らされた

石田 盛り上がったんだ。

石田 家庭菜園コースは自家菜園だけではなく、出荷まで結びつける。すくすく生き生きコースは

「家の光」を教材にして、心とく

ただでなく、出荷まで結びつける。すくすく生き生きコースは

『家の光』を教材にして、心とく

組織活動を事業活動につなぐ

石田 女性部推薦の女性理事が二人。理事会に女性が入って緊張感が出てきたと伺いました。平成十六年からは女性大学を始めていますね。東北では早いほうですよ。

畠山 女性大学では「家庭菜園コース」と「すくすく生き生きコース」の二コース制をとっています。家庭菜園コースは自家菜園だけではなく、出荷まで結びつける。すくすく生き生きコースは

コース」の二コース制をとっています。

石田 家庭菜園コースは自家菜園

コース」の二コース制をとっています。

石田 家庭菜園コースは自家菜園

コース」の二コース制をとっています。

石田 家庭菜園コースは自家菜園



マスコットキャラクター「ふくちゃん」



JA秋田しんせい
(秋田しんせい農業協同組合)

組織の概況(平成26年2月末日)

組合員数……………21,390人
……………(正組合員12,585人、
……………准組合員8,805人)
役員数……………35人(うち常勤5人)
職員数……………589人(うち正職員439人)

地域と農業の概況

秋田県の南西部に位置し、県内一温暖な気候と鳥海山の冷涼な気候を併せ持つ地域。農業の中心は稲作で、土づくりにこだわった米の生産に力を入れており、また、ミニトマト、アスパラガスなどの青果物や黒毛和牛牛牛の生産が盛ん。「秋田由利牛」「秋田鳥海りんどう」「鳥海ポーク」などのブランドが目玉されている。

JAのデータ(平成26年2月末日)

設立……………平成9年4月1日
本所所在地……………〒015-8538
秋田県由利本荘市荒町字峙台1-1
出資金……………60.3億円
販売品販売額……………106億円
購買品供給額……………56億円
貯金残高……………1,263億円
貸出残高……………373億円
長期共済保有高……………4,983億円

島山 一支部ありますが、各支部でTPP反対の看板をつくり競い合っています。JA祭りにも青年部コーナーを出店して、存在感をアピールしています。

JA祭りは毎年一人一人の来場者があってたいへんな盛況です。場所は家畜市場で、普通車で一〇〇台駐車できます。隣には市の総合体育館があって、そこにも三〇〇台駐車できます。高速を下りてすぐなので人が集まりやすい。何といっても一番の人気は抽選会です。八万円くらいの「はとバス招待券」がもらえます。

石田 総合ポイント制度も早くから導入していますよね。

島山 ええ。平成二十年にスタートさせました。わがJAの独自開発で、六千万円の開発費をかけました。県内で導入しているのはうちだけですが、二十八年度からは県域で順次スタートする予定です。わがJAのポイントカードは、マスコットキャラクターの「ふく

ろう」にちなんで「ふくちゃんカード」と名づけています。Aコープ、SSはもちろん、女性部活動にもポイントが付きます。家族でポイントをまとめることもできます。

正組員用はゴールド、准組員用はシルバー、女性部用はプラチナ、員外用はブロンズと色分けし、正組・准組・女性部のポイントを員外の二倍にして、組合員メリットを強調しています。

石田 なるほど、JAファンづくりに貢献しているんだ。

島山 介護、葬祭事業にもポイントが付くように計画しています。介護事業はショートステイ、デイ、訪問介護を含めて三か所、葬祭事業も三か所で行っています。今回、介護保険制度が変わってかなりの減収が見込まれるので、この対策を講じているところです。

そんなこんなで、地域におけるJAの役割は非常に大きく、由利本荘市にかほ市の

トップとは年二回懇談会を開き、情報交換をしています。由利本荘市の指定金融機関にもなっていて、

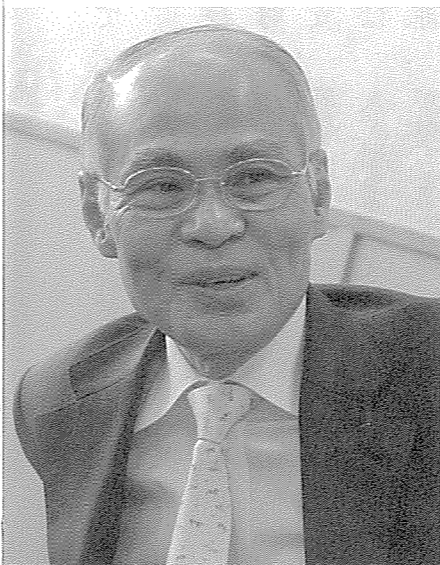
トップを求めらるるJA

事業的にも大きなメリットがあります。県内で指定金融機関の資格を持っているのはうちだけです。

島山 合併は平成九年。わたしはその時に理事になり、平成十三年に専務理事になりました。合併時には一〇〇人以上の職員と一〇億円近くの内部留保があったのですが、三年連続の赤字決算となり内部留保を使い果たしました。そこで、わたしに与えられた役割は経営の建て直しでした。恨まれるのを覚悟で、常勤理事の報酬を三割カット、職員には早期退職制度を設け説得に乗り出しました。相当の批判を浴びましたが、今

やらねば赤字が続く。そうなったから、もう一回合併だ。合併と合理化、どちらがよいか、という議論の末、合理化を了承してもらいました。その結果、子会社への転籍を含めて職員を半減させ、経営の建て直しに成功しました。今では県内でもトップクラスの事業量の確保、財務基盤の確立を果たしています。

叱りつけるだけでは職員はついてきません。家康の「己を責めて人を責めるな」を肝に銘じて経営



いしだまさあき
昭和23年生まれ。東京大学大学院農学系研究科博士課程満期退学。農学博士。専門は地域農業論、農業政策学、協同組合論。三重大学教授を経て、本年4月より龍谷大学農学部教授。京都大学農学研究科(農林水産統計デジタルアーカイブ講座)研究員を併任。近著に『農協は地域に何ができるか』(農文協)、『JAの歴史と私たちの役割』(家光協会)など。



JAのステークホルダーとは

ステークホルダーとは「利害関係者」。JAのステークホルダーは組合員だけではない。役員、地域住民、連合会、取引業者、行政庁、その他非営利・協同セクターなど多彩だ。姉妹提携JAや都市農村交流を行う都市住民が含まれる場合もある。

こうした多彩なステークホルダーとバランスよく、そして良好な関係を築くことをステークホルダー・マネジメントという。JA運営の要だ。営利企業も同じだが、そこでは投資家への利益還元が最優先にされる。

盲点はステークホルダーには自然、将来世代が含まれていること。彼らは何も発言できないから「眠れるステークホルダー」と言われる。そういう視点で本JAの「実感！みんなが満足No.1」を見ると、そこでは“資源循環型農業の本格稼働”が真っ先に掲げられていた。的を射た整理だ。(石田正昭)

て、そのケアを含めて次世代対策に乗り出す必要があります。

石田 言つては失礼ですが、進取の気風に富んでいますね。

島山 トップというのは、次のリーダーを育てることが、責任だと思つています。人を育てること

の重要性、これを教えてくれたのが初代の佐藤秀一組合長です。

「まずは人の話を聞け、判断を間違えるな」「自分が正しいからといって、まっすぐ言つてはだめだ」「人の話に耳を傾けなければ、人はついてこないぞ」と、口ずっぱく言われました。

わたしは若い頃、青年部活動に情熱を注いできました。しかし、なんの根拠も道理もなく、ただ若さと情熱を武器に我を貫いてきたことに、振り返ってみると忸怩たる思いがします。

石田 パワーはあった。佐藤組合

長は、そこを見込んだわけですね。**島山** 佐藤組合長から見れば、わたしはまだ若輩者です。しかし、そのわたしも後継者を心配しなければならぬ年齢になりました。そうやってまわりを見渡すと、これはという人材が育ってきています。非常にいい感覚を持っているので、その能力を伸ばしたいと思ひ、事あるごとに「土壇場の状況になつても、職員をいじめてはダメだぞ。職員をいじめる前に自分に何ができるかを考えよ」と言っています。

石田 帝王学を授けようとしていらっしゃるわけですね。

島山 経営者は経営者として学ぶべきことがたくさんあります。職員にもそれぞれの考え方があつるから、それをちゃんと汲み取ることが必要です。何事も組合員・職員の目線に立ってやるのが重要だと思ひます。

(終・取材 平成二十七年二月十七日)



はたけやま・しょういち

昭和16年、秋田県大内町(現・由利本荘市)生まれ。35年県立西目農業高校(現・西目高校)卒業後、就農。平成3年大内町農協理事、9年秋田しんせい農協理事、13年同代表理事専務、23年同代表理事組合長に就任。家族とともに米、和牛(繁殖牛)を営む。